

みよし

発行所

太平山頂上鎮座

太平山三吉神社総本宮

宮司 田村 泰教

秋田市広面字赤沼3の2

電話 (018) 834 3443

F A X (018) 835 6864

<http://www.miyoshi.or.jp>



雪晴れ

撮影：新堀 孝志 氏

宮司 田村 泰教

ここ数ヶ月の間に官製談合の容疑で相次いで地方自治体の長が逮捕された。公平公正な行政を司るべき知事の不正。公益よりも自分の権益を優先する者に公務を委ねられるはずがない。

今、いじめや虐待が大きな問題となり道徳観の再生が叫ばれる中で、その範たるべき立場にある者の度重なる不祥事が社会に与える影響は余りにも大きい。「偉い人も陰ではルールを破っている」という不信感・開き直りと「一生懸命働いてもしょうがない」という諦め。一部の者が利権を蝕む構造の中で、若者たちに夢を持って生きると言っても道理が通らない。

高い倫理観のもと各々が自分の役割・使命をしっかりと自覚し務めを果たしていくこと。大人たちの姿勢にこの国の未来が掛かっている。

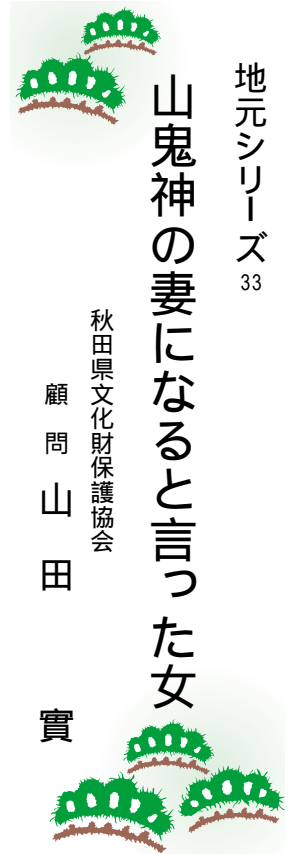
何かと慌しい年末年始。皆さまのご健康と多幸を心よりお祈り申し上げます。

地元シリーズ 33

山鬼神の妻になると言っただ女

秋田県文化財保護協会

顧問 山田 實



したものだ。

大きくなってから、これは全国どこにもある巨人伝説 山人を畏敬するものだと思った。

手形山団地に住むようになってから、はや三十余年になった。夏至のころ太平山のとっぺんから昇ってくる、真紅の太陽を間近に見たときの感動は、忘れられない。思わず合掌してしまう。

生まれ育ったところは、秋田市の繁華街の通町かいわい。子どもころ親に連れられて三吉さんの里宮へよく来たものだ。不思議でならなかったのが、畳一枚ほどの化物のようならわらじ、こんなでっかいわらじを履く三吉さんを想像

いまから一八四年前、江戸後期の紀行家菅江真澄は、文化九年七月太平山へ月見に出かけた。そのときのことを『月のおろちね』にまとめている。このなかに山鬼神の妻になると言っ、ある日漂然と太平山へ出かけた、寺内村の女

ある年、寺内(秋田市)の平助の母が、なにを思ったのか「わたしは太平山にのぼり、三吉の妻になる」と言っ、旅の支度もせず家

を出してしまった。三、四日たつても行方が分からない。人のうわさによると、平助の母は、太平山の三吉の妻となったのだ、と言っ。岳詣りの人たちが見たときは、もう身を化て、ふたつの角をかざし、



髪をふりみだして、あの背の高い女が、谷といわず、岩場といわず、鳥が飛ぶように走り回って身の毛もよだつ恐ろしい女になっていった、と言っ。この話を聞いた平助は、驚き悲しみ仲間と太平山へ母を探しに行った。昼は叫び、夜は

松明をかざしてかけ回つたが見えない。疲れはて、沢を下りた平助が戻ってこない。仲間が探しにいったら、平助は谷間に落ちて死んでいた。板戸に平助を乗せ寺内へ運び弔つた。三五日が過ぎたころ、かの行方不明になっていた平助の母が、羽黒山詣りに行き平助に土産まで持つて帰ってきた。事情を聞いた母が、自分がつまらぬことを言つたのでこのようになったと涙を流して悲しんだ。いまも、この沢を寺内が沢とよぶ。菅江真澄のこの一文を見ると、江戸時代すでに太平山信仰の厚かつたことがわかれる。

山はいろんなことを連想させる。親しくしていただいた先代の田村泰造さんは、「皿見内の古老は、冬至のころ山の雪坊主が『新年来るぞう』と叫んでくる、と話しています。」と山を見上げながら言つたことがふと思ひ出した。

言挙げ²¹

新秋田名物！

権禰宜 鈴木 一 美



代表の海老名保さんは元プロレ

スラー。子供の頃は「仮面ライダー

」に憧れていたそつで変身のポ

ーズ等は大の得意だったに違いな

い。背が高く、胸板が厚く、正に

「ネイガー」には打って付けの人

である。アクションはお手の物で

あろうし、何とも頼もしい本格派

の三十代である。

ても過言ではない。

所は秋田。新生にかほ市に住む

青年たちが「ヒーローは東京にし

かない。この秋田からヒーロー

を生み出せないものか」と三年も

の月日をかけ昨年六月に誕生させ

た。彼らは都会の真似をするので

はなく、地方の良さを前面に掲げ

とことん「秋田」にこだわった。

なのである。

腰には聖なる所を示す×縄に下

げる紙垂（しで）が付いている。

紙垂が動くのは神輿か横綱か「ネ

イガー」位であろう。超神たる所

以である。

この名を更に上げてくれるのが

主題歌だ。これは「マジンガーズ」

などのヒットソングで知られるア

ニメの帝王こと水木一郎氏が秋田

弁で歌っている。「ネイガー・ネ

イガー」のフレーズは耳に良く残

る素晴らしい歌だ。

今や県内各地のイベントに引ッ

張り凧の超人気者である。聞く所

によると日本のみならず海を越え

た台湾でも人気沸騰中だとか。因

みに「ネイガー」の名の由来は男

ウの乗り物など様々、対する怪人
名もこれまた秋田弁をもじって付
けられている。台詞も然り、方言
丸出しの秋田弁なのである。正に
「ネイガー」は動く秋田名物の塊

鹿の民俗行事「なまはげ」の叫び
声「泣く子はいねがあ」からきて
いる。とかく現代は外来語が氾濫して
いる。一方で若者の方言離れは著
しい。お国訛りはくにの宝・誇り

と認識してほしいものである。秋
田の人は引ッ込み思案と言われる
が、やれば出来ると言うう良い手本
を示してくれた。県民の意識を変
えた事に大いに感謝したい。

近頃頼に物騒な世になってしま
った。「悪い事する奴いねがあ」
「飲酒運転する奴いねがあ」「いじ
めっこいねがあ」正義の味方に期
待するところ大である。

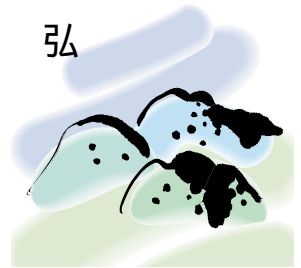


三吉シリーズ 3

福島県国見町石母田鎮座

三吉神社

宮司 松浦知弘



福島県伊達郡国見町石母田に鎮座します三吉神社は弥都波能売神（水神）、三吉大神、坂上田村麿命をお祀りする神社です。

神社の起源につきましても由緒書きや古文書等が長い年月の間に紛失してしまい定かではありませんが、桓武天皇の御代に坂上田村麿命が征夷大將軍に任ぜられ、当地では赤鬼と称する賊を退治したとの言い伝えがあり、その際に三吉大神を深く崇敬され戦勝を祈願されたそうです。以後その徳を称え地域民が当神社に合わせ祀ったことより考えますと約千二百年の

歴史があります。境内には最古の奥州街道が隣接しており遠き昔より清水が湧き出て水の恩恵に感謝し水神をお祀りされたのが創始であると伝えられています。地名も大清水と言ひ、今でも洄れることなく湧き出ております。その後水神様に三吉大神、坂上田村麿命を合わせ祀り三吉大明神として靈驗あらたかな神様として崇められてきました。

三吉神社の歴史

三吉神社は大清水以外にも奥宮として森山峠路に沿う山中に鎮座し岩窟の中に石祠が祀られておりました。幕末から明治初期には三吉信仰



が盛んになり参拝者は絶えず、山里御分霊され三吉神社の格式も確かなものとなり異をと見える者も無くなり、その後社殿も造営され神社としての形もようやく整いました。

古くから松浦家が社家として神様に仕え世襲となっており私で三十九代を数えます。

古くから奥州街道沿いに鎮座していたため、地域民はもとより道中安全の神として往来する多くの人々より信仰されて参りました。

伊勢参宮や江戸見物の道中安全祈願の祝詞などが遺っており現在は交通安全の神として崇敬されております。また、水神をお祀りしていることから水田・農耕の神、五穀豊穣の神、養蚕神として信仰され害鳥害虫除、養蚕安全など祈願もされておりました。三吉様は勝負事は負けずぎらいで、力持ちの神様というのは皆様ご承知のお

三吉神社の信仰

りて選挙当選、入試合格、災難盗難除けの神様として信仰されております。昔は病弱の子供を神社で預かり、「ご神徳により丈夫に育ち実家へ帰らせた」という話も残っており身体堅固のご利益の神様として広く崇敬されております。

三吉神社の例祭・大祭

当社の例祭（秋祭り）は十一月

三日、大祭（春祭り）は四月二十九日に齋行されております。氏子は無く崇敬型の神社でありますので神輿の渡御などはありませんが、方々より崇敬者の方には御参拝いただき、大祭式が盛大に齋行されます。大神様のご神徳にあやかり「力もち」という大福餅のコーナーは人気が高く、参拝者のおみやげとして名物になっております。神楽殿では舞踊の奉納がございます。また、本年は社殿大改修工事竣工にともない地域に伝わる

太々神楽の奉納、子供太鼓の奉納

かたりべによる昔話と神様の話、雅楽の演奏と奉祝行事が行われ、例年に無く多くのご参拝をいただきました。

また境内において神社青年会によるトン汁の無料ふるまいが行われ多くの人々に喜ばれました。青年会活動も定着してきてお正月には年越しそばや甘酒などもふるまっております。

当社の教化活動

当社では「学校週五日制」に伴い五年前より神社境内にて教室を開いております。地域の方々に手伝いいただき茶道体験や和楽器の鑑賞などを行ってきました。

七夕には竹を使った工作や七夕かざりを作って神社に奉納しています。中でも竹で作った流しそめんは子供たちの一番人気です。冬には臼と杵を使つての餅つきや三門松作りを行つて、核家族になりなかなか家庭では行われなくな

つたお正月準備をみんな楽しく行つていきます。地域のお年寄りには「しめなわ」の緋の方を教えるもらっています。わらが規則正しく緋わられて手の中から出てくるのを子供たちは目を丸くして見ている。子供たちの目の輝きや一生懸命に縄を緋おつとする姿を見ているとゲームと向き合っている時とは違つていきいきとしているように思えます。本来の子供たちのあるべき姿だと自負するところもあります。

終わりに

今後は青年を対象とした禊の体験や境内地を整備しての弓道場の設置に力を入れ、多くの人々の心の安らぎの場を造りたいと思っております。武道を通しての教化活動を将来の目標としています。

私は日頃より東北六県の神道青年会の活動を通し田村宮司様には大変お世話になりご指導いただいております。また、この度ご縁がございまして当社を紹介する機会を与えていただきましたことに深く感謝申し上げます。

これも三吉様のご神徳のおかげであります。太平山三吉神社をはじめ全国の三吉神社の益々のご隆昌にご信仰されます崇敬者の皆様のご幸福をお祈り申し上げ筆を置きます。

福島へご来県の際には是非ご参拝ください。



お伊勢さん

内宮

(前回から続く)

倭姫命(やまとひめのみこと)は大和の国(奈良)を始め伊賀(三重県伊賀市)、近江(滋賀)、美濃(岐阜)の各地を回られた後、伊勢の国の度会(わたらい)の地、宇治の五十鈴川の川上に到着され、天照大御神の教えのままに「祠(やしら)」を建て

てお祭りされることになりました。祠は社とも書き、家(や)や屋の代(しろ)という意味で、大きなお祭りに際してその度毎に新たに建てられる建物のことです。神籬や祠の

伊勢神宮で行われる第六十二回式年遷宮(平成二十五年)に関する企画

ように祭典の度に臨時に建てられる建物が、神の宮(神さまをお祀りする宮殿)、つまり神宮と呼ばれるほどに大きな規模になったのは、天武(てんむ)天皇から持統(じとう)天皇の御代にかけてのことです。二十一年に一度の大きなお祭である「神宮式年遷宮」もこの時代に始まりました。



©神宮司庁

五十鈴川



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神武館だより

平成十八年度戦績報告

- 一月八日 第三回イーハトーブ剣道大会 三吉道場 三位 花巻
- 三月五日 第五回伊藤道場杯大会 三吉 三位/個人 辻永 三位 山形
- 三月二十一日 第二十四回小林二郎杯 三吉道場 優勝 合川町
- 三月二十六日 第四七回水戸大会 三吉コート準優勝(全国二十四強) 殊勲賞 田村二回戦まで
- 四月十五日 第五三回市民剣道大会 三吉 優勝 泉立武道館 茨城
- 四月十六日 第二回飛鷲旗大会 広面スボ少 優勝/個人 優勝 渡邊 柚
- 五月十四日 第二回秋田県少年剣道錬成大会 三吉 三位
- 七月八日 第四三回亀ヶ崎剣道大会 三吉道場 優勝 酒田市 泉立武道館
- 七月二十六日 第四一回全日本少年剣道錬成大会 三吉 田村出場
- 七月三十日 第五四回みちのく剣道大会 田村 優勝/三吉 二位 日本武道館
- 九月三日 第一回東北地区内山杯大会 低学年優勝 渡邊 柚 水沢
- 九月九日 第三回岩谷杯剣道大会 出場 南高体育館
- 九月十日 宮城岩獅子剣道大会 渡邊 柚 四連覇/女子 準優勝
- 九月十六日 第五二回県少年剣道大会 三吉 準優勝 泉立武道館 栗駒
- 九月十八日 市民スポーツ剣道大会 四級の部 優勝 渡邊 柚
- 九月十八日 第二九回東北地区剣道少年団研修県審査会 最優秀賞 山崎 岳 泉立武道館
- 九月二十三日 第十三回千葉旗大会 三吉 田村出場 岩手中田
- 十月七日 第二回県道場対抗大会(水戸予選) 三吉 田村出場
- 同 第二二回女子個人選抜大会 低学年の部 優勝 渡邊 柚
- 十一月十八日 第四五回鳥海弘毅杯大会 三吉道場 優勝 泉立武道館

厄年・年祝いのご案内

厄年や還暦・古稀などの年祝いを迎えられた方々の無病息災・除災招福のご祈願祭を随時行っております。(団体様やホテル等での出張祈願をご希望の方はお気軽にお問合せ下さい。)

(平成19年)丁亥(ひのとい)一覧

	えと	男性	女性	年齢(かぞえ)
明治42年生	酉(とり)	白 寿(はくじゅ)		99歳
大正7年生	午(うま)	卒 寿(そつじゅ)		90歳
大正9年生	申(さる)	米 寿(べいじゅ)		88歳
昭和3年生	辰(たつ)	傘 寿(さんじゅ)		80歳
昭和6年生	未(ひつじ)	喜 寿(きじゅ)		77歳
昭和13年生	寅(とら)	古 稀(こき)		70歳
昭和21年生	戌(いぬ)	後 厄		62歳
昭和22年生	亥(いのしし)	還 暦(かんれき 大厄)		61歳
昭和23年生	子(ねずみ)	前 厄		60歳
昭和40年生	巳(へび)	後 厄		43歳
昭和41年生	午(うま)	大 厄	厄	42歳
昭和42年生	未(ひつじ)	前 厄		41歳
昭和45年生	戌(いぬ)		後 厄	38歳
昭和46年生	亥(いのしし)	厄	大 厄	37歳
昭和47年生	子(ねずみ)		前 厄	36歳
昭和49年生	寅(とら)		後 厄	34歳
昭和50年生	卯(うさぎ)	厄	大 厄	33歳
昭和51年生	辰(たつ)		前 厄	32歳
昭和57年生	戌(いぬ)	後 厄		26歳
昭和58年生	亥(いのしし)	大 厄	厄	25歳
昭和59年生	子(ねずみ)	前 厄		24歳
昭和62年生	卯(うさぎ)	成 人		満20歳
昭和63年生	辰(たつ)		後 厄	20歳
平成元年生	巳(へび)		大 厄	19歳
平成2年生	午(うま)		前 厄	18歳
平成7年生	亥(いのしし)	十三参り		13歳

年齢は数え年ですので、誕生日に拘らず
新年を迎えるとひとつ年をとります。

1月28日(日) 午前10時～午後4時

どんど祭



お正月の松飾りや縁起物、また古くなったお札・お守りをお焚き上げいたします。当日ご都合の悪い方は、予め神社所定の位置にお納め下さい。

～書籍やぬいぐるみ・置物など神社にご縁のない物や不燃物はお預かりできません。

人形類は10月の人形感謝祭にお持ち下さい。

環境への配慮からビニール袋等は外してお納め下さい。

みよしスケッチ

秋季例大祭

十月十六日・十七日の両日
多くの氏子崇敬者が集い賑々
しく行われました。



人形感謝祭(十月一日)

人形に感謝の祈りを捧げ、
お焚上げする神事が行われま
した。



梵天打合せ(十一月十七日)

平成十九年度梵天奉納につ
いて打合せを行いました。



七五三

多くのご家族がお子さまの
健やかな成長を祈願されまし
た。



歩こつ会(十月二十日)

約十七キロの行程を二十四
名の参加者が完歩しました。



平成19年 上半期祭典・行事予定

1月1日(月)	午前零時	歳旦祭	国家の安泰と皆様のご安寧をお祈りいたします
1月17日(水)	神事 午前6時	梵天祭	力の神である《三吉霊神》にあやかろうと威勢良く先陣を争い梵天を奉納する秋田の冬の伝統行事(10頁参照)
	奉納 午前10時半~正午		
1月28日(日)	午前10時	どんと祭	古くなったお札、お守、縁起物をお焚上げいたします(7頁参照)
2月3日(土)	午前10時	節分祭	福豆をまき供え、除災招福を祈ります
2月11日(日)	午前10時	紀元祭	神武天皇建国の偉業を偲び、日本の繁栄と世界平和を祈念いたします
5月7日(月)	午後6時	春季例大祭宵宮祭	五穀豊穡や家内安全、各種産業の発展を祈る春の例大祭
5月8日(火)	午前11時	春季例大祭当日祭	
6月上旬	太平山荷上げ・参籠所開所		祭具、物資を山頂に運搬し、これより9月までの間、神職が参籠、祈願を行います
6月30日(土)	午後3時	夏越の大祓	上半期の節目に当たり、自分の罪、けがれを祓い清めます

師走の大祓式

この一年の間、知らず知らず自分の身に積もった罪けがれを、形代(かたしろ)に託して祓い清め、心身ともに清々しく新年を迎えるための神事でございます。

ご多忙の折とは存じますが、一年の節目の神事に是非ご参列下さいますようお願い申し上げます。

記

一、日時 平成十八年十二月三十一日(日)

午後二時

一、於 太平山三吉神社拝殿

ご都合のつかない方は、形代でご自身の身を祓い清め、随時ご持参又はご郵送下されば三十一日当日神事ご奉仕の上、御神符をお送りいたします。

当日ご参列の方は、参列できないご家族の方の形代をご持参下さい。

形代(かたしろ)は神社にございますので、必要な数をご連絡下さい。

追悼

責任役員 鎌田 卓 様

(9月5日ご逝去 享年82歳)

責任役員 佐々木孫兵衛 様

(9月8日ご逝去 享年91歳)

役員として永年お力添え賜りましたことに深謝申し上げますと共に
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



秋田市赤沼
三吉

梵天祭

人に押し負けない
大きらい



平成19年1月17日(日) 神事 午前6時～
奉納時間 午前10時30分～正午

歳暮の1月、雪国の静寂を打ち破って行われる秋田の冬祭り「ほんでん」。
力の神・勝負の神を祀る太平山三吉神社の所祭に奉納される梵天は80本余り、
団体ごとに巻簾をこもした梵天は、数十人の男たちを促え、雪の町を練った後、神社に集結する。
「人に押し負け大きらい」と三吉節も西らかに、法螺貝と「ジョヤヤ」の掛け声が響き高く轟くなか、万を越す観衆の前へ、10余りの梵天が騒々しく、男たちは涙と汗とで潤って楽しくもみ合う。
1年の幸を祈る熱い祭りは今後も一足早い春を呼ぶ。

太平山三吉神社総本堂
秋田県秋田市赤沼字赤沼5-2 018-834-3443
<http://www.miyoshi.or.jp>

